

大分県自転車活用推進計画フォローアップ調書

目標1	自転車利用の促進等による健康寿命日本一の実現	(総括部署) 福祉保健部
-----	------------------------	-----------------

◆概要

県民の生活習慣病予防や心身のリフレッシュなどに自転車利用が効果的であることから、自転車競技や、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、県民の健康寿命の延伸等を目指す。

このため、生活習慣病を予防し、あるいは寝たきりにならず人生を健康に過ごし、QOL*1の向上に資するよう、県民のヘルスリテラシー*2の向上を図るとともに、自転車の利用促進につながるまちづくりと連携し、日常の身体活動量の増加・底上げを図る。

また、県民の余暇の充実に資するよう、サイクルスポーツの裾野を広げ、できるだけ多くの人々がサイクルスポーツを楽しめる機会の創出を図る。

◆令和3年(2021年)度の取組

- 健康アプリ「おおいた歩得」でのポイント付与するサイクリング関連イベントの登録【施策①】
- 高齢者を対象とした交通安全教室などの実施【施策②】

◆フォローアップ指標

指標名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
	基準値	実績値	実績値	目標値	実績値
健康アプリ「おおいた歩得」登録自転車イベントでのポイント付与者数	410人	751人	851人	1,500人/年	661人

2021年度 実績値の状況	レンタサイクルを活用したイベントなどの参加者にポイントを付与。昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標達成には至らなかった。
------------------	------------------------------------------------------------------------

〈解説〉

- *1 「QOL」
クオリティ・オブ・ライフ (quality of life) の略。快適な生活の必要条件であり、人間が日常生活を営む上で必要とされる満足感、幸福感、安定感を規定している様々な要因の質。
- *2 「ヘルスリテラシー」
健康課題に対して適切に判断するために必要な情報等を理解し、活用する能力。



大分県自転車活用推進計画フォローアップ調書

目標2	サイクリスト・フレンドリーな「おんせん県おおいた」の実現	(総括部署) 商工観光労働部
-----	------------------------------	-------------------

◆概要

「日本一のおんせん県」が誇る豊富な観光資源と多くのサイクリングルートを持つ大分県の特長を活かし、サイクルツーリズムの推進等、自転車を活用した地域の活性化を図り、サイクリスト・フレンドリーな大分県を実現する。

このため、県内の様々な関係者と連携して、サイクリストの受入環境、サイクリングルート沿線の魅力づくり等に取り組む。

さらに、地域を巡りながら沿線の魅力を楽しむ体験型・交流型旅行の目的地となり得るサイクリングルートとしてブランド化を図り、Webサイト等を活用したプロモーションを展開し、県内を周遊滞在するサイクリストを国内外から誘客する。

また、乗ることそのものを楽しむサイクリング、市民参加型のサイクリングイベント及び自転車競技等、幅広い年齢層が自転車に親しめる多様な機会を得られるよう、広報普及活動等を通じてサイクルスポーツを振興する。加えて、自転車に関する国際会議や国際大会等の誘致を推進し、自転車を通じた地域の活性化を図る。

◆令和3年(2021年)度の取組

- 九州一周広域サイクルルートの設定及び情報発信に向けたマップ制作【施策③】
- Webサイト「サイクリングおおいた」を通じた情報発信【施策③】
- ツール・ド・九州2023開催に向けた大分ステージのコース調査や機運醸成の検討【施策④】
など

◆フォローアップ指標

指標名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
	基準値	実績値	実績値	目標値	実績値
県域をまたぐ広域サイクリングルート*3の数 (延べ数値)	2ルート	2ルート	4ルート	4ルート	4ルート

2021年度 実績値の状況	九州・山口各県と経済界が連携して設定した、「九州横断ルート(大分～熊本)」と「九州山口一周ルート(北九州～別府～延岡)」のルートが追加された。
------------------	-------------------------------------------------------------------------

〈解説〉

*3 「サイクリングルート」

大分県には、自転車活用推進計画に示した主要なサイクリングルートが12ルートあり、そのうち2つが国の自転車活用推進計画上のモデルルートとして指定されている。



大分県自転車活用推進計画フォローアップ調書

目標3	自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成	(総括部署) 土木建築部
-----	-------------------------	-----------------

◆概要

県民の健康増進やサイクルツーリズム推進等のほか、交通分野の低炭素化、都市部を中心とした道路交通の円滑化、交通手段の多様化による周遊性の向上等、自転車交通の役割拡大が期待されている。

このため、自転車は公共交通とともに公共性を有するモビリティであることを踏まえ、それにふさわしい安全で快適な自転車利用環境を計画的かつ継続的に創出するとともに、公共交通との連携を強化し、良好な都市環境の形成を図る。

◆令和3年(2021年)度の取組

- ・ 山香院内線や祇園洲柳原線等の6箇所において自転車歩行者道の整備を実施【施策⑤】
- ・ 国道500号や国道442号等の7箇所において無電柱化事業の実施(整備中)【施策⑥】
- ・ 都市再生整備計画事業により、JR日田駅前広場(北口)(日田市)に駐輪場の整備【施策⑦】
- ・ 駐車監視員活動ガイドラインのエリア拡充(碩田町、豊町、泉町の追加)【施策⑧】

など

◆フォローアップ指標

指標名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
	基準値	実績値	実績値	目標値	実績値
①自転車通行空間の整備延長(延べ数値)	-	1km	6.3km	6.0km	7.8km
②市町村自転車活用推進計画に位置づけられた自転車ネットワーク計画の策定市町村数(延べ数値)	-	0市町村	2市町村	1市町村	2市町村
③まちなかや駅前の駐輪台数(延べ数値)	-	50台	135台	400台	261台

2021年度 実績値の状況	①	山香院内線や祇園洲柳原線等の6箇所において、道路改良事業・交通安全事業・街路事業により、自転車歩行者道の整備を行った。
	②	大分市と佐伯市において自転車活用推進計画を策定。本計画には、関係機関との協議によりまとめられた自転車ネットワーク計画路線や整備目標が示されている。
	③	JR日田駅前広場(北口)に駐輪場126台分を整備した。

大分県自転車活用推進計画フォローアップ調書

目標4	自転車事故のない安全で安心な社会の実現	(総括部署) 生活環境部
-----	---------------------	-----------------

◆概要

自転車事故は、自転車利用者が被害者にも加害者にもなる可能性があるため、交通ルールを遵守し、自分の安全を確保しながら、歩行者へ思いやりをもって運転することが求められている。

このため、自転車交通事故ゼロの社会を目指し、歩行者、自転車、自動車相互の特性や交通ルールについて理解が一層深められるよう普及啓発に取り組むとともに、互いに尊重しあう安全で安心な交通環境の創出を図る。

◆令和3年(2021年)度の取組

- ・ 自転車シミュレータを活用した安全教育の実施(回数:33回、対象人数:6,694人)【施策⑩】
- ・ 交通安全教育講師派遣事業における自転車の安全利用に関する教育の実施(88回、6,206人参加)【施策⑩】
- ・ 交通安全ポスターコンクール(テーマ:自転車の交通事故防止等)の開催(184作品)【施策⑩】
- ・ 県立高校自転車通学生のヘルメット着用義務化の開始【施策⑩】
- ・ 自転車用反射材(サイクルキャップ30,000個)及びDVD(210本)を作成し、県内全ての中学校・高校に配布【施策⑩⑪】
- ・ スタントマンの実演によるスケアード・ストレイト安全教育を県内中学・高校で実施(4校)【施策⑪】
- ・ 大分県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(以下、「自転車安全条例」という。)の施行に伴う自転車販売店等への周知啓発チラシ(約5.8万枚)の増刷、配布【施策⑩⑫】
- ・ 県出身タレントを起用した交通安全大使任命事業での交通安全意識高揚のための広報啓発【施策⑩⑫】
- ・ 自転車利用の多い高校生に向けたチラシ(35,000枚)の作成及び配布【施策⑩⑬】

など



◆フォローアップ指標

指標名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
	基準値	実績値	実績値	目標値	実績値
①自転車事故死亡者	1人	3人	8人	0人/年	4人
②自転車事故数 <small>自転車関係交通事故(人の死亡又は負傷を伴う事故)件数</small>	395件	379件	325件	300件以下/年	319件

※2021年度の実績値は、2021年1月1日から12月31日のデータ。

2021年度 実績値の状況	①	自転車の事故件数は減少傾向にあり、うち死亡事故も昨年度より減少している。
	②	高校生や65歳以上の高齢者の事故が多く、全体の4割以上を占めている。

大分県自転車活用推進計画フォローアップ調書

総合的かつ計画的に推進するための方策	共通
--------------------	----

1 関係者の連携・協力及び人材育成

自転車活用推進計画ミーティング、各種会議、勉強会等

健康寿命日本一大分創造会議やサイクルツーリズムなど、自転車活用推進に関する取組が行われている各種勉強会や意見交換会に参加し、自転車活用推進に関する取組について説明。

自転車活用推進計画ミーティングに参加し、「風景街道 別府湾岸・国東半島海辺の道」沿線市町による自転車活用推進計画策定についての意見交換。

※沿線市町：大分市、別府市、杵築市、国東市、豊後高田市

2 広報活動等

県庁ホームページでの情報発信

自転車活用推進に関する取組について情報発信するため開設した「Cycling OITA」において

自転車安全条例やレンタサイクルなどの情報を掲載。

HPアドレス <http://www.pref.oita.jp/site/cyclingoita/>



3 IoT等の活用

シェアサイクルポート(駐輪場)の設置及び利用促進

自転車の活用推進を図るため、シェアサイクル(電動アシスト付)の実証事業を行う大分市との施策連携により、県庁舎や県立図書館にポート(駐輪場)を設置。

また、シェアサイクルの普及、利用促進を図るため、専用ICカードを設置するとともに、通勤等の利用に便利な会員登録を促進。

※大分市が推進するシェアサイクル事業「おおいたサイクルシェア」は、(株)ドコモ・バイクシェアが運営。スマートフォンでポートにある自転車台数の確認や予約、料金決済が可能。

R4.3月末現在 ⇒ ポート数 63カ所 自転車 225台

((株)ドコモ・バイクシェアは別府市内でも事業を運営。ポート数11カ所 自転車20台)



『シェアサイクルとレンタサイクル』

シェアサイクルは、一定の範囲内に設けられた複数のサイクルポートと呼ばれる駐輪場で自由に自転車を借りることができます。返却は借りた場所と異なるサイクルポートでも問題ありません。一方、レンタサイクルの場合は、基本的に借りた場所に

